



今春 京都医療科学大学誕生

京都医療技術短期大学（南丹市園部町小山東町）が申請していた四年制大学への移行について十一月三十日、文部科学省より認可され、高橋隆学長に認可証が交付されました。これにより今年の春、南丹市内に「京都医療科学大学」が誕生することになりました。

京都医療技術短期大学は、島津製作所（京都市中京区）によって昭和二年に設立された国内初の診療放射線技師養成機関の「島津レントゲン技術講習所」が前身となっています。

その後、京都放射線技術専門学校、京都医療技術専門学校と名称を変え、昭和六十一年四月に、現在の地へ移転され、平成元年には三年制の短期大学に昇格。現在は学生二百四十人が学んでいます。

四年制化は、医療技術の高度多様化する医療現場のニ

ズに対応した品性を備えた人材を育成するのが狙いで、同短大では昨年四月に「大学設置準備室」を設置して、設置認可を申請。十一月三十日、文部科学省より認可されたものです。

新校舎は鉄筋五階建て、延べ約三千四百平方メートルで、図書館や研究室を完備。市では、大学との連携を強めることとしています。

「高度な技術者の養成に努め
地域との連携を深めたい」



京都医療技術短期大学
学長
高橋 隆 さん

本学は、昭和二年に創始者の島津源蔵氏が作られたものです。その当時から将来は大学へと発展させて、高度な技術者の養成という理念を持たれており、受け継がれてきました。

本年は創立80周年ということもあって、約3,700人の卒業生の非常に熱い思いがこうした形で実ったことに大変うれしく思っています。特にわが校の特徴として、入学生の出身の半数は近畿圏から、残りの半数は全国から集まっておりますので、卒業後は、診療放射線技師として全国の医療現場で活躍しています。

今後は地域との連携を深めるために、住民向けのパソコン講座の充実や大学の医療機器の見学会を行い、住民の皆さまの健康増進につながるような企画をしたいと思っています。

さらに南丹市や市内の他の学校との連携を深めたいと願っています。

